



古都祝奈良2024-2025 開催報告

KOTO
HOGU
NARA

こ
ほ
な
と
ぐ
ら

古都祝奈良

奈良市アートプロジェクト

令和6年度事業概要

奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良(ことほぐなら) 2024-2025」

期間	令和6年10月5日（土）～令和7年3月1日（土）
会場	奈良市ならまちセンター、三条通り内旭水公園、奈良市役所南庭、西大寺一条線 ならまち各所
主催	奈良市アートプロジェクト実行委員会、奈良市
協力	各プログラムの協力団体・個人は各プログラム報告において記載 地域コーディネーター（広報）：一般社団法人はなまる
助成	令和6年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

令和6年度事業一覧

美術

- | | |
|--------------|-----------------|
| ・ならまちワンダリング | 参加者数:10,264人 |
| ・古都祝奈良の学校 | 参加者数:18人 |
| ・古都祝奈良シンポジウム | 令和7年3月1日(土)開催予定 |
-

演劇

- | | |
|----------------|-----------|
| ・まちなか舞台 | 参加者数:357人 |
| ・青少年と創る演劇 Lite | 参加者数:177人 |

合計 10,816人

各事業報告①

ならまちワンダリング

「ゼミ」「ラボ」「部活」「座学（グリーン・マウンテン・カレッジ）」の4つのカテゴリーの中で、令和6年8月にならまちセンターに新しくオープンした「コトナラボ」を拠点に、ワンダリング（迷う、彷徨う）を基本に新たな市民の学び合いの場を作る企画。

ワンダリングウィーク

令和6年11月23日（土）～12月1日（日）

プログラムディレクター

藤 浩志

（美術家・秋田公立美術大学教授、NPO法人アーツセンターあきた理事長）

運営

一般社団法人CHISOU

ゼミ

ラボ

部活

座学
(GMC)

※GMC=グリーン・マウンテン・カレッジ



■ならまちワンダリング ゼミ

参加アーティストが今、最も関心のあるテーマをもとに、展示やトークイベントを開催。

○民具BANK奈良ー民具の声を聞くー

安藤隆一郎×飯田惣一郎 11月23日（土）～12月1日（日）

○偶然と選択の作詩展

風間勇助 11月23日（土）～12月1日（日）

○「拡張するファッション論」特別講義

東京藝術大学西尾美也研究室 11月29日（金）

○『美術は教育』刊行記念トークイベント「美術と撤退学」

東京藝術大学西尾美也研究室 11月30日（土）



ならまちワンダリング ラボ

奈良市ならまちセンター1階に新しく誕生した「コトナラボ」を舞台に、参加アーティストがワークショップを開催。実験的な遊びを楽しむ。

○偶然の選択の作詩ラボ

風間勇助 11月16日(土)、24日(日)、30日(土)、12月1日(日)

○にぎにぎ&ときとき つみき部

小山田徹×ブブ・ド・ラ・マドレーヌ 11月23日(土)～12月1日(日)

○ならまちセノグラフィーワークショップ

杉山至 11月23日(土)、24日(日)

○からだ・あそぶ・よろこぶ

安藤隆一郎×飯田惣一郎 11月30日(土)、12月1日(日)

○コトナラボをつくる

藤浩志 11月28日(木)～12月1日(日)



ならまちワンダリング 部活

公募により集まった、市民による文化芸術にまつわる活動が集まり、ならまち周辺を舞台に、さまざまなプログラムを開催。（12件 計38日間開催）

- すこやかクラブ（飯田惣一郎）「童謡・唱歌を歌い継ぐ」
- アルモンデ「知恵と工夫とアルモンデ」
- ナコス「コスプレ行進」
- ふくふくファーム「はたけの歌会」
- チーム旋律談話「旋律談話」
- ヒト×コト読書会「ヒト×コト読書会（紹介本形式：テーマフリー）」
- ヨコタ佑輔「詩とことばに会う」
- 鎌江文子「らくがき部～ビスケットで、手作りのデジタルアートを収集・展示～」
- 清水彩加「大好きなもののダンス」
- ともしびデザイン | さとみ「カフェときどき鹿、写真部」
- ほんの入り口「本棚ワンダリング」
- 吉田ともえ「音をならそう」





ならまちワンダリング 座学(グリーン・マウンテン・カレッジ)

美術家の小山田徹を校長に迎え、参加者とともに対話を繰り返し広げる「学び合いの場」として平成30年度から実施しているプログラム。今年度は、校長代理としてブブ・ド・ラ・マドレーヌを迎え、ゲストが対話を繰り返し広げた。

校長代理

ブブ・ド・ラ・マドレーヌ (アーティスト)

会場

奈良市ならまちセンター芝生広場、エントランス

協力

奈良若者サポートステーション (ボランティア協力)
一般財団法人奈良市総合財団

テーマ

ずっと前からここにいたよ、ココイタ

日程	ゲスト	参加者数
11月16日 (土) 18時 - 20時	中島 香織 一般財団法人たんぽぽの家 事務局長	19人 ボランティア：3人
11月30日 (土) 18時 - 20時	雨森 信 インディペンデント・キュレーター、HUB-IBARAKI ART PROJECTアドバイザー	44人 ボランティア：4人
12月14日 (土) 18時 - 20時	菅野 優香 同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授	33人 ボランティア：5人



各事業報告②

古都祝奈良の学校

若手アーティストの活動の場を奈良で開くこと、その取り組みを基に「教科書」を作成することを目的とし、参加者を公募した。ならまちをリサーチしながら新たな活動のイメージを描き、メンター等のサポートを受けながら実践を重ねた。

プログラムディレクター

藤 浩志

(美術家・秋田公立美術大学教授、NPO 法人アーツセンターあきた理事長)

メンター

藤 浩志 (美術家・秋田公立美術大学教授、NPO 法人アーツセンターあきた理事長)

ブブ・ド・ラ・マドレーヌ (アーティスト)

杉山至 (舞台美術家、芸術文化観光専門職大学准教授)

リサーチ滞在期間・実施場所

令和6年10月5日(土)～6日(日)・ならまちセンター、ならまち各所

参加(7組9人) 応募者数(16組18人)

空函出版・野口大輔・はしもとさゆり・平岡真生・明神慈・メノンカルティカ

・Yoko Ichikawa



古都祝奈良の学校 活動内容

【1日目】10月5日（土）

奈良市観光ソムリエ友松洋之子氏によるツアーでまち歩きを行う
まち歩きを踏まえたディスカッション
西山厚氏による講義
交流会



【2日目】10月6日（日）

フリーディスカッション
ならまち周辺をフィールドワーク
グループディスカッション



【プラン提案（新しい活動のイメージ）一部抜粋】

- ・みんなの餃子（平岡真生）
内容：そこにいるみんなで「からくだもの」を焚き火で温めて食べる。
- ・ならまちで見つけた模様を彫る（空函出版）
内容：ならまちをリサーチする中で発見した模様を木版画として掘り、オリジナルのzineを出版予定。 zine… 個人作成の少部数の出版物

提案されたプランを3年後に実施できるように、
令和7年度以降も継続して、サポートを行えるよう計画。



1031

古都祝奈良シンポジウム

「東アジア文化都市2016奈良市」の10周年を記念して、2026年から新たなアートプロジェクトを実施するもの。

実施日

令和7年3月1日（土）

会場

ならまちセンター

内容

第一部 アーティストトーク

落合 陽一（メディアアーティスト、筑波大学デジタルネイチャー開発研究センターセンター長、筑波大学図書館情報メディア系准教授、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）テーマ事業プロデューサー。）

第二部 パネルディスカッション

森山朋絵（メディア芸術キュレーター、東京現代美術館学芸員（予定））

安藤英由樹（大阪芸術大学芸術学部アートサイエンス学科教授）

大谷智子（大阪芸術大学芸術学部アートサイエンス学科准教授）

仲川げん（奈良市長、奈良市アートプロジェクト実行委員会委員長）

2025

1

まちと未来を
みんなであらう
を
考える

可能性

「東アジア文化
都市2016
奈良市」の10周
年を記念して、
2026年から
新たなアート
プロジェクトを
始動！
その可能性に
ついて考える
トーク &
シンポジウム

奈良市アートプロジェクト
古賀祝奈良市シンポジウム
奈良市文化庁文化推進課文化推進課
奈良市文化庁文化推進課文化推進課

Part 1
Artist Talk
落陽一

会場
ならまちセンター
市民ホール
時間
14:00-16:00

現在、奈良市の活動や奈良市の
文化政策の「アト」について
奈良市アートプロジェクトへ
の期待などについて、落陽一
氏をお招きし、

参加費無料・要申込
参加費無料・要申込
参加費無料・要申込

Panel Discussion

仲川げん
奈良市文化庁文化推進課文化推進課

大谷智子
奈良市文化庁文化推進課文化推進課

安藤英由樹
奈良市文化庁文化推進課文化推進課

森山朋絵
奈良市文化庁文化推進課文化推進課

京都祝奈良
KOTO
HDSU
NARA
ことう
はるな
な

奈良市アートプロジェクト
奈良市文化庁文化推進課文化推進課

申し込み方法
申し込み方法
申し込み方法

Web開催
Web開催
Web開催

会場
会場
会場

申込
申込
申込

申し込み方法
申し込み方法
申し込み方法

Web開催
Web開催
Web開催

会場
会場
会場

申込
申込
申込

■ 各事業報告④

まちなか舞台

まちなか舞台は、演劇団体を公募し、「今ならこれ奈良」をテーマに奈良市内各所で劇団員が劇場を飛び出して演じるプログラムである。まちなかで演じることで、演劇への興味関心を多くの方にもってもらえる機会をつくる。

プログラムディレクター

田上 豊（劇作家・演出家・芸術文化観光専門職大学助教・田上パル主宰）

日程 11月23日（土・祝）～24日（日）

場所 市役所舞台 …奈良市役所南庭（奈良市二条大路南一丁目1-1）
みちばた舞台…西大寺一条線（奈良市西大寺東町2丁目地内）
三条通り内旭水公園（奈良市下三条町41）

内容 観覧料無料で、一つの会場を複数団体にシェアするショーケース形式の公演を行う。

テーマ 「今ならこれ奈良」奈良の明るい未来を感じさせるもの



まちなか舞台 実施内容

○11月23日（土）

会場：〔みちばた舞台〕三条通り内旭水公園

- ・相棒（ポカリン記憶舎）
- ・寅さん鹿さん（小町座）
- ・女生徒（劇団的屋）

会場：〔市役所舞台〕奈良市役所南庭

- ・ナ・LIVEワークショップ創ろう奈良のこれから（ナ・LIVE実行員会）
- ・拍子を握る（ナガメのしっぽ）
- ・なら昔話ー采女物語ー（ナラノフエ 前川笙水）
- ・いのちの作法2024（シアター・プロジェクト・奈良）



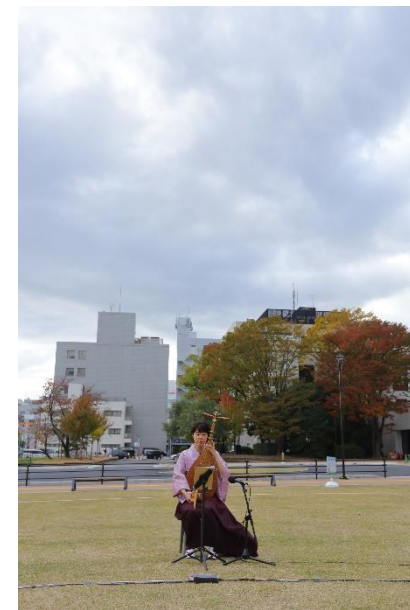
○11月24日（日）

会場：〔みちばた舞台〕西大寺一条線

- ・平城京の羅針盤（生駒市民劇団シアター生駒）

会場：〔市役所舞台〕奈良市役所南庭

- ・これまでとこれからと（足一）
- ・大和漫遊記（関西文化芸術高等学校演劇部）
- ・ピクニック（小町座）



各事業報告⑤

青少年と創る演劇Lite

次代を担う青少年が創作の過程を演劇のプロとともに経験することで、創造する喜びを体験し、その成果を発信するとともに、ふるさと奈良を自分の言葉で語ることでできる人材育成を目的とする。

プログラムディレクター

田上豊（劇作家・演出家・芸術文化観光専門職大学助教・田上パル主宰）

演目 令和5年度開催の戯曲ワークショップで創作した戯曲

「秋の収穫」作 高野紀江 「道標（みちしるべ）」作 成田直子

「橋の下には川がある」作 なりたたかゆき 「過去と未来の子供たち」作 桑理孝子

「石舞台とスケッチとお弁当と」作 吉川友子

期間

【稽古】会場：ならまちセンター、中部公民館

令和6年11月29日（金）30日（土）

12月7日（土）～8日（日）、14日（土）、20日（金）～21日（土）

【公演】会場：ならまちセンター

令和6年12月22日（日） 10:00、14:00開演

出演

奈良の中学生、高校生（参加者 中高生12人、OGスタッフ2人）

奈良市アートプロジェクト 古都祝奈良 2024-2025

演出：田上 豊、F.O.パレイラ宏一朗

出演：公募で集まった奈良の中学生・高校生

「秋の収穫」作・高野紀江

「道標（みちしるべ）」作・成田直子

「橋の下には川がある」作・なりたたかゆき

「過去と未来の子供たち」作・桑理孝子

「石舞台とスケッチとお弁当と」作・吉川友子



「青少年と創る演劇」は、公募で集まった奈良の中学生・高校生がプロとともに演劇作品を創作・上演し、創造する喜びと、ふるさと奈良を自分の言葉で語る人材の育成を目指すプログラムです。これまでのべ140人を超える中高生が、奈良ゆかりのオリジナル演目やリーディング劇に挑戦してきました。今年度はLiteバージョンとして、ギュッと圧縮した短期間のプログラムで稽古を重ねてきた中高生が、最終日に成果発表のミニ公演としてリーディング劇を上演します。演目は、昨年度開催の戯曲講座ワークショップで、奈良を撮り続けた写真家 入江泰吉の昭和の写真をもとに一般参加者が創作したオリジナル戯曲5編。令和の十代が、昭和の香る物語に挑戦します！

2024 12.22 sun.
奈良市ならまちセンター

① 午前の部：10時開演 1階 エントランス
② 午後の部：14時開演 2階 多目的ホール
（上演時間：60分予定）

観覧無料

青少年と創る演劇Lite

青少年と創る演劇Lite 記録写真



令和6年度事業 成果と課題

成 果

- 「古都祝奈良の学校」は、今年度初めての企画であったが、2日間の連続プログラムのため、参加者の多くは、奈良に宿泊利用があった。外国人やユニットとしての参加もあり、多様な人材の発掘をすることができた。文化芸術に関わる人材の交流の場としても機会の提供ができ、来年度以降の人材育成プログラムの基盤となる貴重な人材も確保できた。
- 「ならまちワンダリング」では、未就学児から年配者までの幅広い市民を対象に学び合い、創造する場を提供。「ゼミ」「ラボ」「部活」「座学」の4つのカテゴリーで多くのプログラムをコトナラボを中心に実施することで、ならまちセンターが創造発信拠点としての機能を発揮できた。
- 「まちなか舞台」では、文化施設以外の公共の場と連携するなど地域資源の活用を行ったことで、あらゆる人が文化芸術に触れる機会の提供につながる内容となった。

課 題

- 市外の参加者も見込めるような効果的な周知方法の検討や、計画的な広報活動ができるように、事業スケジュールの見直しが必要である。